

「高崎プライド」 ～心と形を整える～

令和2年6月5日（金） NO8 文責 木下 文秋

誹謗中傷（ひぼうちゅうしょう）

根拠のない悪口を言いふらして傷つけること

プロレスラーの木村花さんという方が亡くなりました。ある番組に出演していてその中で彼女の言動に対し「消えろ」という言葉をはじめ、文字に起こしたくないような辛らつなコメントが毎日100件以上寄せられ、それを苦にしたものだそうです。私は木村さんのこともこの番組のことも知りませんでしたが、匿名というわがまを盾に22歳の尊い命が失われたことは残念です。総務省はネット上の匿名の発信者の特定を容易にするための制度改正を検討すると発言しています。インターネットを見ると「軽い気持ちで書き込んだけど罪になるのか」「本当に特定されるのか」という相談が弁護士の所にたくさん届いているそうです。SNSやツイッターなどで自分の情報を公開する若者が増えています。恐らく中学生にもたくさんいるのだと思います。今回の事件には「発信者の情報が特定されない」という危うさがあります。SNSなどの書き込みをしても、それがどこの誰なのか分かる制度が確立されればそのほとんどがなくなるはずです。インターネットが普及して世の中はとても便利になりました。コロナの影響でリモートによる学習も行われています。しかし、便利さの影には危うさが潜んでいるのも事実です。こんなことを書き込んで本当にいいのかと一度立ち止まって考え直す人ばかりではありません。「どうせばれない」という盾を持つ人ならどんなことでも書いてしまいそうです。これまでにLINEのやり取りの中で辛い思いをして、命をなくした不幸な中学生や高校生がいるのが現状です。苦しい時や辛い時に人を地の底から拾い上げて救ってくれるのはロボットではなく人です。人にはぬくもりを感じる優しい言葉があります。それで救われる人はたくさんいます。しかし、残念なことに人をグメにしてしまうのも人です。病んでいる人に対して、これでもかと辛らつな言葉を吐き捨てる人がいます。皆さんはどちらの人になりたいですか。「むかつく」「キモイ」「うざい」なんていう身勝手な言葉で、人を苦しめるネット社会の制度を改めていただきたいと思います。東日本大震災の混乱の時、被災地に届けられる支援物資に「我先に」ではなく、きちんと列を成す日本人の姿は世界中から賞賛されました。日本人としてのプライドをかけて、今回のような事件は二度と起こしたくないものです。